

### 第3学年英語科 学習指導案

日時： 令和5年9月13日(水) 5校時

場所： English Room(学習室1)

授業者：

1 単元名 New Horizon English Course 3 『Learning CIVICS in English』 p.68

2 単元の目標

学校をよりよくするための公約をグループで協働して考え、スライドにまとめて発表できる。

【書くこと・話すこと(発表)】

3 指導計画：総時数2時間(本時1/2時間)

(1) 学校をよりよくするための公約について、既習事項を用いて、英語で自分の考えや思いを書く。(本時)

(2) 公約を発表し、他の生徒の公約発表を聞いて、賛成、反対の意見やその理由を述べ合う。

4 評価規準

時数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1時	本単元においては、記録に残す評価は行わない。	学校をよりよくするための公約について、既習事項を用いて、英語で自分の考えや思いを書くことができる。	学校をよりよくするための公約について、既習事項を用いて、英語で自分の考えや思いを書こうとしている。
第2時	本単元においては、記録に残す評価は行わない。	公約を発表し、他の生徒の公約発表を聞いて、賛成、反対の意見やその理由を述べ合うことができる。	公約を発表し、他の生徒の公約発表を聞いて、賛成、反対の意見やその理由を述べ合うとしている。

5 単元について

(1) 教材観

本単元では、中学3年生という時期は、3年後に投票権が得られるという実感を得るところから導入が始まる。本授業は、実際の選挙について考える前のステップアップとして設定し、まずは身近な生徒会への立候補、および魅力的な、「学校をよりよくするための公約」について、班隊形で、生徒の様々な発想を進めていく。そのフォーマットとしては「Let's Write2 記事への意見-投稿文-Step3」を利用し、知識・技能としてはUnit 4の途中段階までの文法や語彙を活用していく。また、タブレットによる部分的な翻訳も積極的に認めるため、未習事項を使用する生徒が出てくることも予想される。その生徒については後ほどフォローしていく。公約については班で協力して各自スライドにまとめ、発表する。身近な話題について具体的に考え、その中で英語による見方・考え方や、思考力・判断力・表現力を養うことができると考える。

(2) 生徒観

第3学年の生徒は各クラスとも共通して、ペア学習や自由発言等による回答の提示などが積極的にできており、様々な学習活動に意欲的に取り組む姿勢が見られる。本時の4組においては、発表に関しては控えめな生徒集団であるが、課題への探究心が高く、熱心に取り組んでいる。特に書く活動や、グループでの共同作業を通して、表現力の高まりが見られている。中には高度な学力を有する生徒、英語を第二言語として日本語を習得中の外国人生徒、帰国子女、班活動に協力的な生徒もあり、多彩な学級集団となっている。昨年度から受験しているGTEC Coreのスコアにおいては、A2~PreA1、その他の学力においても大きな差があるが、よく頑張っている。

(3) 指導観

本時では、英語4技能のうち「書く」力に焦点をあて、身近な話題について自分の意見を持ち、班の意見も参考にしながら、学校をよりよくするための公約を考えさせる。活動を通して、これまでに学習した表現を統合的に活用させ、生徒の思いや考えを表出させることを目指したい。本時の学習過程においては、課題についてまずは自分事として理解させ、発表に向けた原稿作成を評価場面としている。また、次回予定の発表に向けても、必要となる資質・能力が徐々に身につくよう、意図的に練習を行う。英文の内容については、実現可能な公約、正確な文法というよりも、まずは自分の思いを書いてみることを最優先とし、中間指導でブラッシュアップを図り、本事業の目的となる発信力の強化に向けた指導を行う。

本時に限らず、日々の授業では常にグループの体形で授業を進めている。グループの構成は、習熟度を中心にリーダー格となる生徒を各班で対角線上に2人配置し、英語に対する苦手意識のある生徒はくじ引きなどで、英語力がバランスよくなるよう振り分けている。グループの中で正面・左右・斜めの順に相手を変えてコミュニケーションを行わせることで、活動回数を増やしつつ、負荷を上げていく配置となっている。グループ分けの理由は、生徒にもやさしい表現で公表しており、違和感なく活動が行われている様子が伺える。

終末段階では、本事業の重点の一つであるCAN-DOリストによる自己評価を通して、生徒の主体的な学習態度を育むとともに、教師の今後の指導改善へとつなげていく。

6 小中連携の視点

これまでの取り組みを通して作成した、小中連携CAN-DOリスト”Minami English Roadmap”に示されている各学年の領域別目標に基づいて、授業設計を行っている。本リストを小中学校でそれぞれ参照し、各学年間での指導の積み重ねや、教科書題材の関連などを意識しながら指導を行うことで、小中の英語学習が円滑につながるものと考えている。

7 本事業の目的との関連

(1) 「学校をよりよくするための公約」という身近なテーマにより、英語による発信力を強化する。

(2) CAN-DOリストの効果的な運用を図る。

8 学習過程

段階	学習活動・内容	形態	○指導上の留意事項 評価(手立て)	
			JTE	ALT
導入 1 1分	1 Warm-up Dice Talk サイコロの目で決まったトピックについて、ペアで即興的な Small talk を行う。	ペア (2)	○英語が苦手な生徒への支援をする。	○英語が得意な生徒への支援をする
	2 Oral Interaction (1) 選挙および投票に関するALTとJTEの会話を聞く。	一斉 (2)	○本時の場面設定を理解しやすくするために選挙のイメージを提示し、福島県議選、Joeの投票に関する経験、意見について会話をを行う。	○生徒の反応によって、速度などを調整する。
	(2) 何の話をしてきたかグループで確認させ、選挙に関心があるか確認する。 (3) Thinking about voting ・18歳になったら投票に行くか、ペアで質問し合う。 (4) Look at the voting turnout graphs Task2の投票率グラフを見て、年齢別、世界別の投票率を知る。	班 (2) 一斉 (1) 班 (3)	○オーストラリアの投票率が高い理由にも言及する。	○何のグラフなのか、生徒にとって理解しやすい英語使用を心がける。
3 Understanding Today's CAN-DO	一斉 (1)	学校をよりよくするための公約を考えて、投票してもらえるような発表の準備をしよう。		
展開 3 5分	4 “Challenge” (1) ワークシートとJTE、ALTの例を参考に、グループごとにブレインストーミング形式で意見を持ち寄る。	班 (7)	○参考として、何例かワークシートに載せる。情報収集のためにタブレットを活用させる。	○完成形のイメージを持つために、始めに Joe's idea and Mr. Matsuda's idea のPPの例を提示する。 JTEとともに机間巡視し、適宜コメントや助言を行う。
	(2) 自分の意見を、ALTの例を参照しつつ、現時点でどの程度言えるかペアで確認する。 (3) 各班のアイデアを全体で共有し、自分の意見の参考にする。 (4) 個人のワークシートに自分できめたアイデアを公約として書き出す。 (5) ALTの例を再度参照し、書き方の構成を確認する。 (6) グループ内で途中経過の回し読みを行う。 (7) 書く活動を再開する。	ペア (3) 一斉 (5) 一斉 (5) 一斉 (2) 班 (3) 一斉 (10)	○ALTとともに発話を支援する。  ○質問を受け付けながら支援を行う。  学校をよりよくするための公約について、既習事項を用いて、英語で自分の考えや思いを書くことができる。【思判表・主学態】(観察)	○進みが早い生徒の原稿を添削する。
終末 4 分	5 Learning about next lessons	一斉 (1)	○次回の発表に向けて励ます。	○次回への期待を寄せるコメントをする。
	6 Can-Do Reflection	一斉 (3)		